

## 在宅看取りの実践力を磨く PENUT 演習

編集室

2026年1月17日（土）、在宅看取りの質の向上と実践力の強化を目的に、訪問看護師向け在宅看取り教育プログラム（Program of End-of-life care for home visiting Nurses Training：PENUT）の研修が開催されました。PENUTは、質の高い看取りを支える訪問看護師の育成を目指して日本訪問看護財団が開発した教育プログラムであり、約10時間の講義（オンデマンド配信）と1日間の演習（ライブ配信等）で構成されます。本稿では、演習の様様をお伝えします。

### 初回訪問における看護計画立案の重要性

演習は東京都訪問看護教育ステーションにも認定されているあすか山訪問看護ステーションで開催され、5名の参加者が受講しました。

研修は二部構成であり、第一部では当日のオリエンテーションと参加者の自己紹介を終えた後、当日までに出された事前課題について振り返りました。研修参加者には事前に「医師からの訪問看護指示書と看護サマリーのみを参考に、在宅看取りを見据えて退院した療養者への初回訪問における看護計画を立てる」という課題が出されており、計画書を作成する上で気を付けたことや、訪問時に確認したいことについて一人ずつ発表していきました。

全員の発表を終えた後、当日のファシリテーターを務めたあすか山訪問看護ステーション統括所長の平原優美氏は、「自身がまだ訪問していない中で看護計画を立てることは難しいものの、アセスメントに基づき療養者の状態やニーズを推論する力が養われるので重要」と、初回訪問における看護計画立案の大切さを強調しました。参加者からは「書面上の情報しかないので療養者や家族の人となりが想像しづらく、初回訪問時に何をすべきか、すごく迷った」「初回の訪問は普段、自事業所の所長しか行かないので、難しさを感じた」といった声が聞かれました。



第二部ロールプレイの様子。シナリオを基に即興でロールプレイを行い（写真奥）、気付いた点について一連のやりとりを観察していた平原氏や参加者ら（写真手前）がフィードバックする。

### 「質問攻め」を卒業し、療養者・家族の立場に立った対話を学ぶ

第二部では、「がん末期で最期まで自宅で過ごしたい療養者。在宅療養に不安を感じている妻と同居」という設定が共有され、看護師役、療養者役、家族役に分かれて初回訪問のロールプレイを行いました。参加者は全ての役を順番に担当していき、1回ごとにファシリテーターや観察していた他の参加者から気付いた点について、フィードバックされました。参加者は「療養者や家族に質問攻めしていたと反省した」「情報収集と関係性構築のバランスをとるのが難しかった」と、普段のコミュニケーションの癖や場の空気を和ませつつ情報を得ることの難しさを感じたようでした。

ロールプレイを終え、平原氏からは療養者の自宅に最初にお邪魔する時、相手は少なからず緊張しているので、特に配慮が必要であると強調。たとえ自分の価値観とは異なる状況に遭遇しても、相手の立場になって考えることが重要だと述べました。また、そのためには看護師自身が落ち着いていることが求められるとし、療養者宅を訪問する前に深呼吸する、好きな香りのアロマを携帯しておく、といったセルフコントロール術を持っておくのも一案だとしました。

\*

研修は無事終了し、5名の参加者には修了証が贈られました。参加者は充実した時間を過ごせたようで、今日学んだことを日々の訪問でも積極的に取り入れていきたい、と今後の抱負を語りました。在宅看取りのスキルアップに興味のある方は、PENUTをぜひ受講してみたいかがでしょうか。興味のある方は日本訪問看護財団のページ（右記の二次元バーコード）をご覧ください。

